

2024年4月28日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第67巻第5号(通算3387号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

小さくされている人を
大切にする教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

イエスは言われた。「私が復活であり、命である。

私に信頼して歩む人は、たとえ死んでいても生きる」(ヨハネによる福音書11:25)

復活節 第5主日礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

前奏(黙祷) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

招きの詞 詩編 106編 1-5節

賛美歌 21-209番「めさめよ、こころよ」(©讚美歌編集委員会)

聖書 ガラテヤの信徒への手紙 5章 16-26節

お祈り

賛美歌 21-332番「恐れを捨て去り」(©JASRAC)

メッセージ 「霊と肉、理性と本能」 水谷 憲 牧師

賛美歌 21-342番「神の霊よ、今くんだり」(©讚美歌委員会)

主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

誕生者祝福式 水谷 憲 牧師

献げ物(*)

派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

祝福 水谷 憲 牧師

後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讚美歌委員会)

報告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

*受付に献金箱がございます。

「献げ物(献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

1 ハレルヤ

主に感謝せよ。

まことに、主は恵み深い。

その慈しみはとこしえに。

2 誰が主の力強い業を語り

主への賛美をすべて聞かせられようか。

3 幸いな者

公正を守り

どのような時にも正義を行う人は。

4 主よ、あなたの民に与える恵みによって

私を心に留めてください。

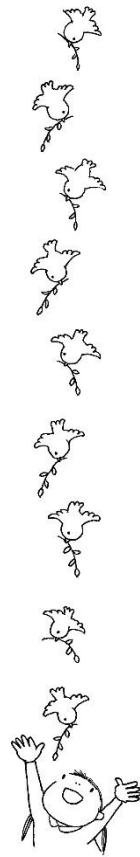
救いによって私を顧みてください。

5 あなたの選ばれた者の幸いを見

あなたの国の喜びを喜び

ご自分の民と共に

誇ることができるようにしてください。



聖書 ガラテヤの信徒への手紙 5 章 16-26 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

16 私は言います。霊^{れい}によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。17 肉の望むことは霊に反し、霊の望むことは肉に反するからです。この二つは互いに対立し、そのため、あなたがたは自分のしたいと思うことができないのです。18 霊に導かれているなら、あなたがたは律法の下にはいません。19 肉の行いは明白です。淫行^{いんこう}、汚れ^{けが}、放蕩^{ほうとう}、20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、嫉妬^{しっと}、怒り、利己心、分裂、分派、21 妬み^{ねた}、泥酔^{でいすい}、^a馬鹿騒ぎ、その他このたぐいのものです。以前も言ったように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはありません。22 これに対し、霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、節制であり、これらを否定する律法はありません。24 キリスト・イエスに属する者は、肉を情欲と欲望と共に十字架につけたのです。25 私たちは霊によって生きているのですから、霊によってまた進もうではありませんか。26 思い上がって、互い^{いど}に挑み合ったり、妬み^{ねた}合ったりするのはやめましょう。

(脚注 a：別訳「酒宴」)

《先週のメッセージより》4月21日 復活節第4主日礼拝

「歩みよる神。かつて今もこれからも」より

牛田匡牧師

聖書 ヨハネによる福音書 21章15-25節

今回の聖書のお話しは「ヨハネによる福音書」の巻末から、復活されたイエス様とペトロのお話でした。イエス様はペトロに「あなたは私を愛しているか」と3回尋ね、ペトロは「はい、主よ、私があなただを愛していることは、あなたがご存じです」と答えました。しかし、3回も同じ質問をされたので、ペトロは悲しくなるとあります。よっぽど自分の返答が信用されていなかったのかと感じたのでしょうか。かつてペトロは「たとえ殺されることになっても、イエス様の行く所に自分もついて行きます」(ヨハネ13:37)と公言していましたが、実際にイエス様が逮捕された時には、「あなたも仲間の一人じゃないか」と声を掛けられながらも、「あんな人は知らない」と3回もイエス様のことを否定してしまいました(18章)。ここでイエス様から、3回に亘って「私を愛しているか」と問われたペトロは、かつての自分を思い出して、悲しくなったのではないのでしょうか。

もう一つ気になるのは、イエス様とペトロの言葉の違いです。元々のギリシャ語では、イエス様は「私をアガペーしているか」と問いかけ、ペトロは「はい、フィリアしています」と答えています。現代日本語でも「愛する」と「大好き」という言葉は、あまり区別なく使われているように思いますが、ペトロが一貫して「フィリアしています」と答えているのに対して、イエス様は始めの2回は「アガペーしているか」と問いかけているのに、3回目にはペトロに合わせて「フィリアしているか」に言葉を変えています。これは「フィリアしています」としか答えられないペトロに対して、イエス様の方から歩み寄って来られ、そのままのペトロを受け入れてくれたように読めるのではないかと思います。

隣の人たちを、大切にしたいと思いながら、最も身近にいる同居の家族に対してすらも、大切にすることができないことの多い私たちです。私たちがそんな弱さや限界を抱えているということも、神様は全て分かった上で、それでも神様の方から、かつて今もこれからも、いつでも私たちの方に歩みよって下さっています。そして「私に従いなさい」と言われるイエス様に背中を押されて、今日も私たちは、イエス様の後に従う道へと歩み出して行きます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 4月21日 復活節第34主日礼拝

礼拝出席 大人5名 献金 大人5,000円 中継視聴者数6回 感謝
礼拝後に、2024年度定期教会総会を無事に開催することができました。

◎次週 2024年5月5日(日) 復活節第6主日礼拝

招きの詞 詩編 8編 2-3節

聖書 ヨハネによる福音書 16章 25-33節

メッセージ 「あなたは独りではない」牛田匡牧師

賛美歌 21-493 (©教団出版局)、こ改 131 (©生地善人)、21-452 (©JASRAC)

礼拝後に5月期の教会を考える会を行う予定です。



◎お知らせ

- ・本日の礼拝後には、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行って、いこい食堂にお届けする予定です。どなたでもご参加ください。
- ・5月3日(金)～4日(土)にかけて、大阪教区総会が大阪女学院ホールチャペルにて開催されます。久宝教会からは牛田匡牧師と さんが出席予定です。
- ・4月29日(月・祝) 12時～14時半に、八尾高校の隣にある八尾教会(栄町1-5-8)で、バザーが開催されます。掘り出し市、軽食、音楽演奏などがあります。どなたでもご参加ください。
- ・5月12日(日) 15時～17時にかけて、大阪クリスチャンセンターにて、大阪教区社会委員会主催講演会「〈10.7〉ガザ蜂起とイスラエルのガザ侵攻の本質はどこにあるのか? ハマス台頭とシオニズムの文脈を追う」が開催されます。講師は早尾貴紀さん(東京経済大学教授)です。2023年10月7日ハマスをはじめとするガザ地区の抵抗運動がイスラエルを攻撃して多くの人びとが人質に取られたことに対し、イスラエル政府はパレスチナのガザ地区への侵攻を強化し、虐殺ともいえる軍事攻撃が続いています。3万人以上の命が暴力的に奪われる現実に対して、わたしたちはどのような態度・姿勢を取るべきなのでしょう。歴史的な文脈、そして、イスラエル政府の背景にあるシオニズム運動の植民地主義について知ることから、「中立」の立場をとって虐殺に加担することをやめ、平和のために歩み出していきたいと願っています。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
5/5	牛田匡牧師	ユーカリスト 教会を考える会
5/12	水谷憲牧師	家族の日礼拝 (第二好意の庭・感謝祝福式)
5/19	牛田匡牧師	おにぎり支援
5/26	水谷憲牧師	誕生者祝福式

大阪教区社会委員会主催講演会

〈10.7〉ガザ蜂起とイスラエルのガザ侵攻の本質はどこにあるのか?

---ハマス台頭とシオニズムの文脈を追う

講師：早尾貴紀さん(東京経済大学教授)

東北大学文学部卒業/東北大学大学院経済学研究科博士課程修了、博士(経済学)。ヘブライ大学及びハイファ大学客員研究員などを経て現在、東京経済大学教授。主な著作『ユダヤとイスラエルのあいだー民族/国民のアポリア』(青土社 2008年、新装版 2023年)、『困ってなんだろうーあなたと考える「私と国」の関係』(平凡社 2016年)『希望のディアスポラー移民・難民をめぐる政治史』(春秋社 2020年)、『パレスチナ/イスラエル論』(有志舎 2020年)ほか。

日時：2024年5月12日(日)午後3時～5時

会場：大阪クリスチャンセンター

参加費無料

2023年10月7日、ハマスをはじめとするガザ地区の抵抗運動がイスラエルを攻撃して多くの人びとが人質に取られたことに対し、イスラエル政府はパレスチナのガザ地区への侵攻を強化し、虐殺ともいえる軍事攻撃が続いています。

3万人以上の命が暴力的に奪われる現実に対して、わたしたちはどのような態度・姿勢を取るべきなのでしょう。イスラエルの言うように、ハマスが先に攻撃を開始したのだから、制圧のためには仕方ないことなのでしょう。しかし、パレスチナの人びとの歴史を知れば、「10月7日」が始まりではないことが見えてきます。また、ハマスはパレスチナを「実効支配する武装組織」などではなく、2006年に民主的選挙で選ばれた組織です。

こうした歴史的な文脈、そして、イスラエル政府の背景にあるシオニズム運動の植民地主義について知ることから、「中立」の立場をとって虐殺に加担することをやめ、命を愛する主イエスに連なり平和のために歩み出していきたいと願っています。

講演会はZoomでも配信します。Zoomからの参加をご希望の方は、社会委員会の樋川一幸委員長(大阪常盤天下茶屋教会)までE-Mailにてお申し込みください。

Zoom参加のお申し込み先：kazuyuzu.tigers@gmail.com